

さまざまな環境問題に“現役”として活発に活動されている大先輩の会員に、40年の歴史を振り返るとともにこれからの学会の課題や展望について寄稿頂き、2つは、活動開始5年目を迎えた若手活性化プロジェクトの運営に尽力されているメンバーに座談会を持ってもらい、その記録を掲載した。

共同研究では7つのプロジェクトやワーキンググループによって、昨年度に引き続いて活動が展開された。また若手活性化プロジェクトの活動も活発に展開され、研究発表会や交流会が行われた。

学会業務の運営に関しては、役員交代期に当り、前年度に実施された選挙によって選ばれた新たな会長、幹事を迎えた。幹事会、常任幹事会の半数は新たなメンバーで担当して頂くこととなり、5回の常任幹事会と3回の幹事会を開催した。財政については、歳入面では、会費納入率が、前年度までの努力で改善された水準が維持され、歳出面では、会誌印刷費がこれも前年度の努力で大幅に削減されたこと、及び会議ではスカイプ活用による交通費削減などによって出費が抑えられ、全体として健全な状態が保たれている。

I-1 会員の移動（2014年5月1日現在）

入会者数：35名，退会者数：55名，シニア会員への区分変更：8名

会員数：442名（一般会員：318名，シニア会員：47名，学生会員：37名，購読会員：40名）

I-2 通常総会

2013年6月15日に広島大学東広島キャンパスで開催した。

I-3 幹事会および常任幹事会を以下のように開催した。

2013年6月16日	第1回幹事会	東広島市（広島大学東広島キャンパス）
8月11日	第1回常任幹事会	京都市（気候ネットワーク事務所）
10月5日	第2回常任幹事会	京都市（気候ネットワーク事務所）
12月7日	第3回常任幹事会	京都市（龍谷大学深草キャンパス）
12月7日	第2回幹事会	京都市（龍谷大学深草キャンパス）
2014年3月29日	第4回常任幹事会	京都市（気候ネットワーク事務所）
5月17日	第5回常任幹事会	京都市（気候ネットワーク事務所）
6月21日	第3回幹事会	府中市（東京農工大学）

I-4 研究発表会

第39回研究発表会を2013年6月15日～17日に広島大学東広島キャンパスで開催した。

第5回若手研究者発表大会を2014年3月5日に龍谷大学大宮キャンパスで開催した。

I-5 シンポジウムおよび現地見学会等

(1) 現地見学会：「地域の小水力発電関係施設と酒造組合などの環境を守る取り組みの見学」を2013年6月17日に広島県東広島市で行った。

(2) 「日本環境学会第5回若手研究者交流会」を、日本環境学会第40回研究発表会のプレ企画として、2014年6月20日に神奈川県川崎市にて開催した。川崎臨海地区の川崎エコタウンの取り組みについてお話を伺った。

I-6 会誌等の発行

日本環境学会会誌『人間と環境』39巻2号，39巻3号，40巻1号を刊行した。

I-7 会員への情報伝達

配信用メーリングリスト（info）で10通，東広島大会のプログラムは郵送を含め全会員に周知した。

I-8 国内外への環境問題への取り組み

I-8-1 ワーキンググループおよびプロジェクト

廃棄物問題 WG

土壌汚染 WG

温室効果ガス排出実態分析委員会

東京都日の出町広域処分場周辺環境調査委員会

福島第一原発事故による放射能汚染問題研究委員会

再生可能エネルギー研究プロジェクト

I-8-2 後援・協賛・協力

第2回 原発と人権 全国研究交流集会 in 福島 ～人間・コミュニティの回復と原発のない社会をめざして～ (2014年4月4日～6日, 福島市) を後援した。

I-9 部会報告

I-9-1 総務部 (部長: 長屋祐一)

常任幹事会・幹事会の招集, 議事録の作成, 学会事務局への問い合わせへの対応等, 学会運営に関わる通常業務について執り行った。

I-9-2 庶務部 (部長: 豊田陽介, 事務管理委託先: 気候ネットワーク)

- (1) 会員異動の管理, 会費の管理, 印刷費等の支払い等, 学会運営に関する通常業務について, NPO 法人気候ネットワークに業務委託し執り行った。
- (2) 特に, 長期滞納者への督促をし, 納入のない会員を退会扱いとし, 会員数の実態を整理した。
- (3) 『人間と環境』の保存・管理を目的に, 以下を除き PDF ファイルに変換した。
(26 巻 2 号, 25 巻 1 号, 22 巻 3 号, 19 巻 1 号, 18 巻 1 号, 17 巻 1 号, 15 巻 1 号, 1 巻 1 号が事務局の手元にない状況。)

I-9-3 編集部 (部長: 佐藤輝, 委員: 伊藤良栄, 上園昌武, 歌川学 (編集委員会副委員長), 関耕平 (編集委員会副委員長), 多羅尾光徳, 長屋祐一, 西川榮一, 的場信敬, 除本理史, 和田武, 渡邊泉)

- (1) 『人間と環境』 39 巻 2 号, 3 号, 40 巻 1 号 (学会創立 40 周年特集号) を刊行した。
- (2) 編集委員会メーリングリストを活用し, 委員会内での報告・議論を行なった。
- (3) 科学技術情報発信・流通総合システム (J-STAGE) のオンラインジャーナルに原著, 研究ノート, 特別報告などの登録作業を進めている。

I-9-4 共同研究部 (部長: 伊藤良栄, 部員: 伊瀬洋昭, 歌川学, 権上かおる, 坂巻幸雄, 瀬戸昌之, 畑明郎, 本間慎, 渡邊泉, 上園昌武, オブザーバー: 長屋祐一)

- (1) 研究会の廃止および追加
「東京湾海洋環境研究委員会」は解散した。
- (2) プロジェクトの進捗状況 (2013 年 5 月 18 日現在)

プロジェクト名	廃棄物問題 WG
<設立・完了日>	
<現状>	<活動中>
担当者	○畑明郎・坂巻幸雄・本間圭吾・高島邦子
活動状況	2012 年度は, 東日本大震災がれきの広域処理問題について, 滋賀県や大阪市等への処理中止申し入れや学習会講師を務めた。『人間と環境』第 38 巻第 3 号に提言を寄稿するとともに, 滋賀県と大阪市の事例については, 2013 年 6 月の広島大会で発表した。滋賀県大津市北部の残土埋立地の土壌汚染調査を実施し, 大津市と業者に対策を取らせた。2013 年度は, 滋賀県高島市の放射能汚染木くず不法投棄事件に取り組み, 2014 年 6 月の東京農工大の大会で発表する。

現状の問題点	特になし
来年度の活動展望	引き続き、各地の廃棄物問題に取り組んでいく。
日本環境学会に望むこと	共同研究部会予算を凍結せずに執行し、分配して欲しい。

プロジェクト名	土壌汚染 WG
<設立・完了日>	< 2006 年 12 月幹事会で承認 >
<現状>	<活動中>
担当者	○坂巻幸雄・畑明郎・佐藤克春・本間圭吾・松井英介・高島邦子・安田圭奈江
活動状況	江東区豊洲の東京都中央卸売新市場予定地に関する土壌汚染問題を中核として、各自情報の収集・解析と、メール・ベースでのデータ～意見交換を行った。これらの情報は必要に応じて、要請があった市場関係者や市民団体等に対しても、随時提供した。 在京メンバーは、これらに併せて、都の市場関係者に対する説明会・都民有志による不当に支出された土地買収代金の返還訴訟等についても、可能な限り傍聴支援を行った。
現状の問題点	3.11 以後、都は土壌汚染に関する具体的なデータを一切公表しなくなり、除染工事を一方的に進めているが、その効果の程は一切検証されていない。工事契約に当たっても、入札不調や、談合が推定される事実上の 1 社応札が相次ぎ、事業の透明性が鋭く問われていて、改めて社会問題化しつつある。これらの運動に対する研究者側からの多面的な支援が要請されてきているが、現状では、十分に対応出来ているとは言い難い。
来年度の活動展望	都に対してデータの開示を強く要求し、その入手と解析に努める。併せて、従来の経過を総括して、問題点の整理と取りまとめを行う。メンバーの補強と、関係諸団体との連携強化を図る。
日本環境学会に望むこと	関係者間で「共闘会議」結成の動きがあるので、学会として随時適切な対応が取れるよう、常任幹事会との密接な連携を希望する。

プロジェクト名	温室効果ガス排出実態分析委員会
<設立・完了日>	< 2007 年 9 月 29 日常任幹事会設置了承済み >
<現状>	<活動中>
担当者	○歌川 学
活動状況	2010 年 4 月に第 2 期報告を行った。 2011 年 3 月の震災・原発事故以降、電力構成が大きく変化、一方で省エネの進展があった。また再生可能エネルギー固定価格買取制度施行により再生可能エネルギー電力量にも変化がある。 現在、次回報告を準備している。
現状の問題点	特になし
来年度の活動展望	データ更新を行うと共に、新しい検討テーマを加えていく。
日本環境学会に望むこと	温室効果ガス削減対策でも、節電・省エネ対策でも、排出やエネルギー消費実態把握が重要。学会主催の報告会などをする際には協力可能。

プロジェクト名	東京都日の出町広域処分場周辺環境調査委員会
<設立・完了日>	
<現状>	<活動中>

担当者	○瀬戸昌之・本間 慎・坂巻幸雄
活動状況	日の出ごみ埋め立て処分場・エコセメント化施設，さらに，2011年の福島第一原子力発電所の爆発は東京都日出町・青梅市の環境にどのような影響を与えているのであろうか。 われわれは，これらの地域の人や市民団体と共に，日の出処分場・エコセメント化施設からの汚染物質と放射性物質の土壌や空間における線量の分布，また，生物への影響などを調べている。さらに，これらの調査の成果を多くの人たちにわかりやすく伝えることにも努力している。
現状の問題点	ごみ問題は何も解決していない。それどころか，震災がれきの焼却処理は新たな汚染をもたらしている。しかしながら，調査や運動にかかわる人や組織が疲弊しその存続が危ぶまれている。
来年度の活動展望	ごみ問題や震災がれきをめぐって，他団体との連携も含めて，この連携の意義を全国的に広げることも展望したい。
日本環境学会に望むこと	日本環境学会は政府が実効性のある「汚染者負担の原則」や「拡大生産者責任」を導入するように取りくんでほしい。

プロジェクト名	福島第一原発事故による放射能汚染問題研究委員会
<設立・完了日>	< 20110612 幹事会で承認 >
<現状>	<活動中>
担当者	○畑明郎・坂巻幸雄・本間慎・本間圭吾・原田泰ほか約 60 名
活動状況	ホームページとメーリングリストを開設し，活発な情報交換を行なっている。2011年10月に6名で現地調査を実施し，その成果は『人間と環境』第38巻第1号に掲載するとともに，2012年6月の別府大会シンポジウムで報告した。12月には，本間慎・畑明郎編『福島原発事故の放射能汚染』を10名で執筆分担し，世界思想社から出版した。2013年度は，福島第一原発の汚染水漏れ事故を分析し， 2014年6月の東京農工大の大会で発表する。
現状の問題点	特になし
来年度の活動展望	メーリングリストによる情報交換を進めるとともに，問題分析と政策提言をしていきたい。
日本環境学会に望むこと	共同研究部会予算を凍結せずに執行し，分配して欲しい。

プロジェクト名	再生可能エネルギー研究プロジェクト
<設立・完了日>	< 20111103 常任幹事会で承認 >
<現状>	<活動中>
担当者	○上園昌武・知足章宏ほか 19 名
活動状況	研究会メンバーを執筆陣とした『先進例から学ぶ再生可能エネルギーの普及戦略』を2013年3月に出版した。
現状の問題点	2013年度は研究会を開催できなかったため，今後の研究計画を具体化するなどの取組を検討する。
来年度の活動展望	科研費の獲得などで研究費を調達して，更なる研究成果を得るべく活動を展開していきたい。
日本環境学会に望むこと	特になし

I - 9 - 5 企画部（部長：歌川学，副部長：安田圭奈江* #，部員：知足章宏*，中村真悟*，西川榮一，大瀧正子*，平岡俊一*，的場信敬*，森家章雄*，和田武* [*：若手活性化プロジェクト（YAPJ），#：YAPJ 事務局長]）

- (1) 会誌 39 巻 2 号 pp.15-16 (2013) に「第 4 回若手研究者発表大会」(2013 年 3 月 8 日，京都) の開催報告を掲載した（執筆者：中村真悟）
- (2) 「第 5 回若手研究者発表大会」を開催した（2014 年 3 月 5 日，京都市下京区の龍谷大学大宮キャンパス）。研究発表：5 件，参加者：約 20 名。
- (3) 「第 5 回若手研究者交流会」(2014 年 6 月 20 日，神奈川県川崎市) を，東京農工大学での日本環境学会第 40 回研究発表会のプレ企画として開催した（報告を会誌に掲載予定）。
- (4) 会誌 40 巻 2 号 (2014) に，「第 5 回若手研究者発表大会」(2013 年 3 月 5 日，京都) の開催報告を掲載予定（執筆者：知足章宏）。
- (5) 2014 年 6 月の大会シンポジウム「再生可能エネルギーと地域発展」の企画検討を行った。

I - 9 - 6 情宣部（部長：大場和久，HP・ML 管理者：豊田 陽介）

- (1) ニュースレター等の配信用メーリングリスト（info）での情報提供：会員に対して，第 40 回研究発表会のお知らせ（[jaes-info:00051] 2014 年 3 月 3 日など），若手研究者発表大会のお知らせ（[jaes-info:00049] 2014 年 2 月 22 日），などの情報を発信した。Info の現時点での登録数は 367 名（5 月 12 日現在）である。
- (2) メーリングリスト：現在，学会のメーリングリストとして，会員相互の情報交換用（jaesML），幹事会用（jaesmc），常任幹事会用（jaesjo），事務連絡用（jimu），ニュースレター等の配信用（info）を設置・運用している。jaesML の登録者数は 281 名（5 月 12 日現在）である。jaesML 利用を停止した会員のアカウントについて，2013 年度総会にて本人から ML 復帰の要望が出された。第 1 回常任幹事会で，今後は適切に ML を利用することが書かれた書面を提出してもらうことにより復帰手続きを取ることが確認された。当該会員から 2013 年 9 月 6 日付けで書面が提出され，2013 年 9 月 17 日付けで ML に再登録した。Info にて本措置について報告するとともに，ネチケット違反となる投稿をしないよう注意喚起を行った。
- (3) 2013/4/1 ~ 2014/3/31 の学会 Web サイトへのアクセス数は以下の通りだった。
訪問者数 9,776 (2012/4/1 ~ 2013/3/31 は 12,598)
ページビュー数 37,425 (2012/4/1 ~ 2013/3/31 は 50,875)

I - 9 - 7 国際部：（部長：的場信敬，部員：小堀洋美，和田幸子，歌川学）

- (1) 前国際部が検討されていた英語版ウェブページ作成の進捗状況について，前国際部長から情報提供を受けた。現在，基となる日本語ウェブページの再チェックの作業中である。英語版 1 次草稿を作成後，内容およびその後のプロセス（ネイティブチェックや会員全体への確認作業など）について，幹事会に検討をお願いする。